

令和 2 年 9 月 10 日

「令和 2 年度森林林業振興助成事業」の選考結果について

(一財) 日本森林林業振興会
会長 沼田 正俊

一般財団法人日本森林林業振興会は、森林・林業の振興及び山村地域の活性化に寄与する優れた調査研究活動、技術開発、モデル的な取り組み等に対し、当該取り組み等に必要経費の一部を助成する「森林林業振興助成事業」を実施しています。

その第 4 回目として、令和 2 年度（令和 2 年 7 月～令和 3 年 6 月）の公募を実施したところ、新規 10 件、継続 1 件の計 11 件の応募がありました。それぞれの申請内容について、学識経験者を含む選考委員会を設置し厳正に審査を行った結果、下記の各事業の令和 2 年度事業計画について助成対象とすることを決定しましたので、お知らせします。

記

1 令和 2 年度事業の新規採択

1) 海外で森林保全を促進するための情報を公開するシステムの開発 ＜公益財団法人 国際緑化推進センター＞

- ・地球温暖化防止対策や SDGs を踏まえた我が国の森林・林業分野における国際協力の推進に寄与するため、海外の森林と林業に関する各種文献をキーワード検索により一元的に閲覧できる公開型のデータベースを構築し、主に海外での植林や森林造成等に関心を有する方々に広く開かれた双方向のプラットフォームを提供する。

2) 積雪寒冷地域におけるスギコンテナ苗短期生産システム確立のための実証事業 ＜一般財団法人 地域森林整備集団＞

- ・加温・長日処理等により積雪寒冷地においても短期間でスギ・コンテナ苗を育苗することが可能であることを前事業で実証したところであり、その成果と課題を踏まえ、植栽後の成長調査、水耕栽培や新高機能肥料による成長促進試験等を実施して、積雪寒冷地域におけるスギコンテナ苗の短期生産技術の体系化を図る。

3) 地域の創意工夫・実践技術の普及啓発事業 ＜一般社団法人 林業機械化協会＞

- ・林業の重大災害の 7 割が伐木作業時に発生し、原因の 4 割以上がかかり木処理等に係るものとなっていることから、各地で創意工夫がなされ、実践されている「かかり木対策に有用な技術や器具・機材等」を募集し、専門家等による検討を行ったうえで普及する事業を行い、林業現場における安全対策の向上に資する。

4) 新たなリモートセンシング技術を用いた効率的な収穫調査と素材生産現場への活用方法の提案 ＜国立研究開発法人 森林研究・整備機構＞

- ・新たなリモートセンシング技術の最適な運用方法や活用方法を提案し、林業技術者向けマニュアル「新たなリモートセンシング技術の効果的な導入、運用、活用の手引き(仮題)」を作成する。作成した マニュアルを事業で連携した林業現場にフィールドバックするとともに、業界誌やウェブサイトを通じて広く発信し、現場レベルにおける資源把握および素材生産の効率化に寄与する。

5) 国産早生広葉樹の優良個体選抜技術の開発

～使う側が育てることを理解し、育てる側も使う側のニーズを考えて～

＜全国天然木化粧合単板工業協同組合連合会（九州大学大学院農学研究院木質資源理学研究室、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターと共同実施）＞

- ・早生広葉樹の種苗生産に向けた優良系統の選抜については、木材利用の観点から必要とされる形質、ニーズに応じた量をいち早く生産するために必要な種子の生産性やさし木の発根性などの繁殖・増殖特性を考慮することが重要である。こうした視点から、国内で生育しているユリノキ及びびチャンチンを対象として、両樹種に適した優良系統の選抜基準を作成する技術を開発する。

6) 木質バイオマス利用と森林・林業に関するタブレット教材作成事業

＜一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会＞

- ・再生可能エネルギーとしての木質バイオマス利用、SDGs と森林・林業の役割や地球温暖化防止対策の重要性等について、より身近な対象として若者等も関心をもてるようなタブレット教材を作成し、公開して普及する。教材の送り手と利用者との双方向のやり取りも可能とし、継続的な関心の育成に貢献する。

2 既採択事業の継続実施

森林を活用した障害者・高齢者の保健休養及びレクリエーションの今後の展開方向に関する実証的調査事業

＜一般社団法人 全国森林レクリエーション協会（特定非営利活動法人日本森林保健学会と共同実施）＞

問い合わせ先 （一財）日本森林林業振興会
〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6階
（一財）日本森林林業振興会 坂井、千葉
TEL：03-3816-2471
E-mail：kikakukoubol7@center-green.or.jp